

# 病害虫発生予察情報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

## 7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病 (葉いもち)	やや少ない	並	野菜	白ねぎのネギアザミウマ	並	—
	いもち病 (穂いもち)	やや少ない	やや早い		白ねぎのネギハモグリバエ	やや少ない	—
	紋枯病	やや少ない	やや遅い		白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや多い	—
	稲こうじ病	やや少ない	やや早い		ハスモンヨトウ	やや少ない	並
	斑点米カメムシ類				アブラムシ類	少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	並	—	果樹	果樹カメムシ類	並	—
	アカスジカスミカメ	並	—		リンゴの褐斑病	並	—
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		リンゴの輪紋病	やや少ない	並
	ニカメイガ (第2世代)	並 (局部多い)	並		リンゴのハダニ類	多い	—
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	—		リンゴのキンモンホソガ	並	—
	ヒメトビウンカ	やや少ない	—		ニホンナシの黒星病	多い	—
	セジロウンカ	やや少ない	やや遅い		ニホンナシの輪紋病	やや少ない	並
	イネアオムシ	並	—		ニホンナシのナシヒメシンクイ	並	—
イナゴ類	やや少ない	—	ニホンナシのハダニ類		多い	—	
大豆	葉焼病	並	並		ブドウのべと病	並	—
	ウコンノメイガ	やや少ない	並	カキ (三社) のフジコナカイガラムシ	少ない	—	
	ハスモンヨトウ	やや少ない	並	モモの灰星病	少ない	—	
	フタスジヒメハムシ	やや多い	—	モモのせん孔細菌病	やや少ない	—	
	アブラムシ類	少ない	—	花き	きくの白さび病	やや少ない	—
	ハダニ類	やや多い	やや早い		きくのハダニ類	やや多い	—
野菜	白ねぎのさび病	やや少ない	—		アブラムシ類	少ない	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	やや少ない	—	タバコガ類	やや少ない	—	
	白ねぎの軟腐病	並	—				

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課  
 TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974  
 情報参考 URL  
<https://taffrc.pref.toyama.jp/nsgc/nougyou/>

# I 水 稻

## 1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・ B L A S T A M情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月10日である。
- ・ 防除指針 29～30 ページ参照

表 6月のB L A S T A M判定結果

月日	朝日	魚津	上市	富山	八尾	伏木	氷見	砺波	南砺高宮
6月14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月15日	—	4	1	4	1	4	—	1	1
6月16日	—	—	1	—	1	—	—	—	—
6月17日	—	—	1	—	—	4	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	2	2	3	—	—	—	2	2
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	—	—	—	—	—	—	2	—	—
6月29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—

## 2 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：やや早い

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・ 7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

### 【早発要因】

・ 水稻の出穂期が早くなると予想されている。

(3) 防除対策

- ・ 防除指針 31～32 ページ参照

### 3 紋枯病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：やや遅い

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・前年の発生量は少なく、本年7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

【遅発要因】

- ・本年の初発確認日は6月27日で、平年（6月23日）よりやや遅かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 28～29 ページ参照

### 4 稲こうじ病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

【早発要因】

- ・水稻の出穂期が早くなると予想されている。

- (3) 防除対策

- ・前年に発生が多かったほ場では発生リスクが高いため防除を徹底する。
- ・防除指針 34ページ参照

### 5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は1.4頭で、平年（3.2頭）より少なかった。

【多発要因】

- ・7月の平均気温は平年並みまたは高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。
- ・イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
- ・斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
- ・てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。
- ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。

- ・近隣に雑草地や麦あと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多くなる場合があるので防除を徹底する。
- ・割粃の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 41～43ページ参照

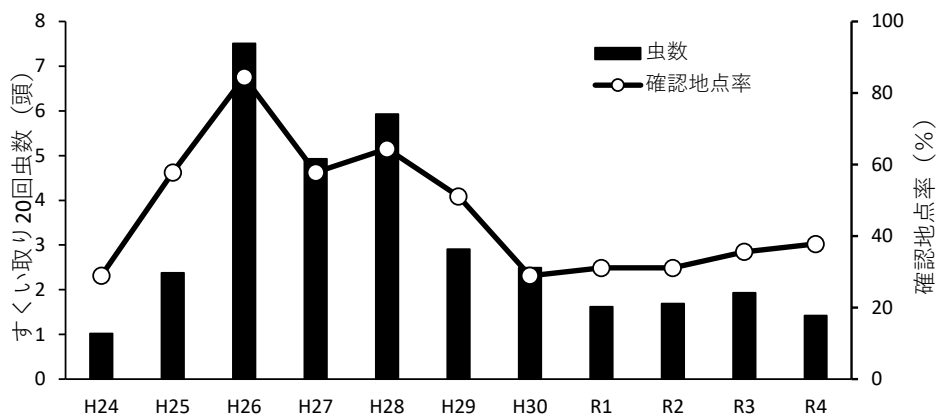


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.8頭で、平年（2.3頭）より少なかった。

### 【多発要因】

- ・7月の平均気温は平年並みまたは高いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 41～43ページ参照

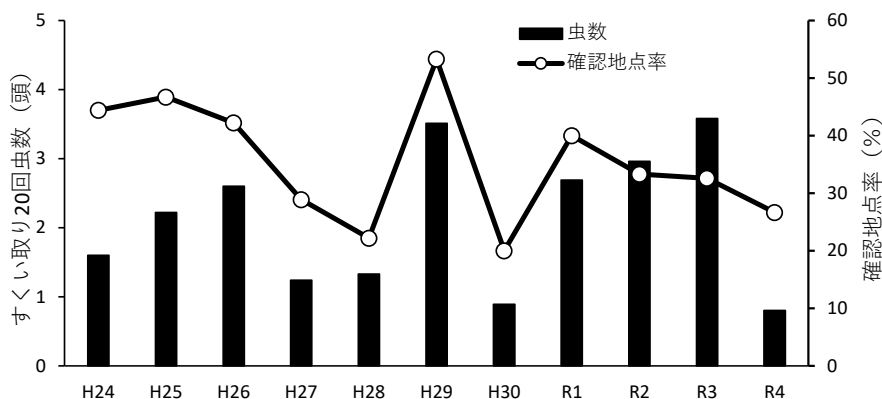


図2 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.0頭で、平年（0.1頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 42～43ページ参照

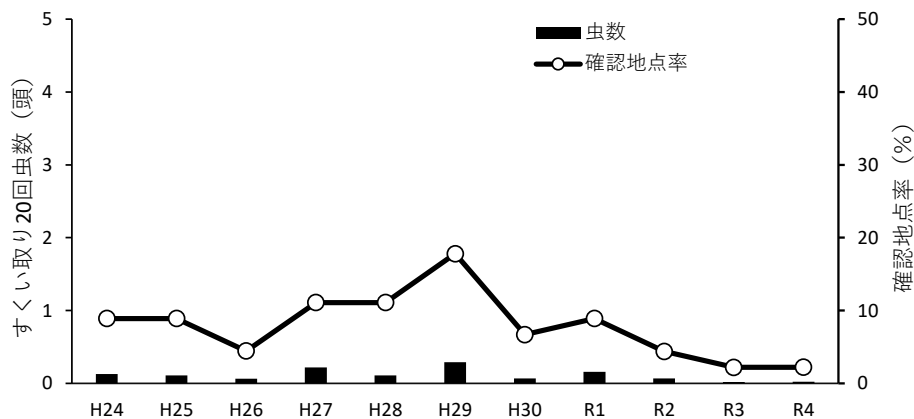


図3 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

## 8 ニカメイガ（第2世代）

- (1) 予報内容 発生量：並（局部多い）  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・6月20日調査の被害株率は0.6%で、平年（0.5%）並であり、局部的であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 36～37ページ参照

## 9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.0頭で、平年（0.1頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 38ページ参照

## 10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.2頭で、平年(0.7頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 39～40 ページ参照

## 1 1 セジロウンカ

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：やや遅い

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年(0.1頭)よりやや少なかった。

【遅発要因】

・現在、発生は確認されていない(平年の初発は6月25日)。

(3) 防除対策

・防除指針 39～40 ページ参照

## 1 2 イネアオムシ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.1頭で、平年(0.1頭)並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 40 ページ参照

## 1 3 イナゴ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・6月20日調査のすくい取り20回虫数は1.5頭で、平年(3.8頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 37 ページ参照

# II 大豆

## 1 葉焼病

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

・7月の降水量は平年並と予想されている。

(3) 防除対策

・防除指針 54 ページ参照

## 2 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・防除指針 54 ページ参照

## 3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月1半旬～5半旬の誘殺数は16.0頭で、平年（40.3頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 56 ページ参照

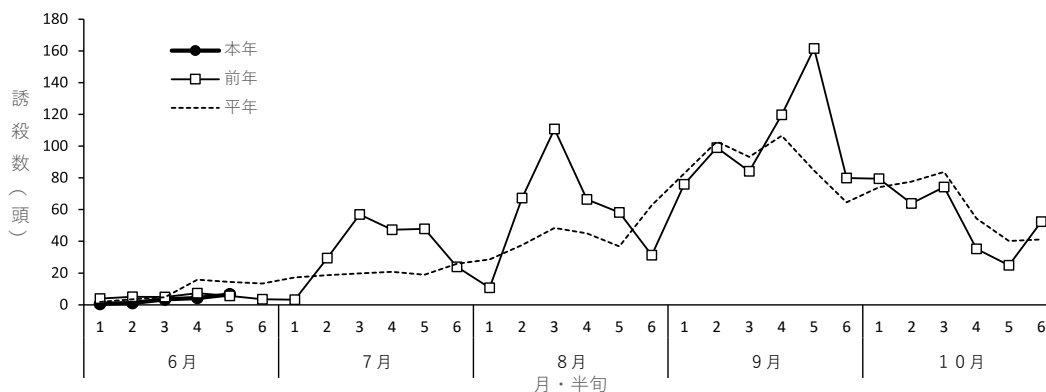


図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移

## 4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月25日調査の被害株率は7.6%で、平年（4.0%）よりやや高かった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 56 ページ参照

## 5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年（0.0%）並に低かった。
- ・ 種子処理剤の普及が進んでいる。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 55 ページ参照

## 6 ハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや多い  
発生時期：やや早い

- (2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・ 6月25日調査の寄生株率は1.2%で、平年（0%）よりやや高かった。

### 【早発要因】

- ・ 6月下旬の平均気温は28.6℃で、平年（22.5℃）よりかなり高かった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 54ページ参照

## Ⅲ 野 菜

### 1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・ 6月25日調査の発病株率は11.2%で、平年（15.1%）よりやや低かった。

- (3) 防除対策  
・ 発生を確認したら防除を徹底する。  
・ 防除指針 98 ページ参照

### 2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・ 6月25日調査の発病株率は0.8%で、平年（1.3%）よりやや低かった。

- (3) 防除対策  
・ 防除指針 99 ページ参照



### 3 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - ・ 7月の降水量は平年並と予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 99 ページ参照

### 4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 6月25日調査の被害株率は13.6%で、平年(54.7%)より低かった。
  - 【多発要因】
    - ・ 7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が少ないと予想されている。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 100～101 ページ参照

### 5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ 6月25日調査の被害株率は9.6%で、平年(16.5%)よりやや低かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 100 ページ参照

### 6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
  - 【多発要因】
    - ・ フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数は25.0頭で、平年(10.2頭)より多かった。
- (3) 防除対策
  - ・ 防除指針 101 ページ参照

### 7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない  
発生時期：並
- (2) 予報の根拠
  - 【少発要因】
    - ・ フェロモントラップによる6月1半旬～5半旬の誘殺数は16.0頭で、平年(40.3頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 67～136 ページのハスモンヨトウの項を参照

## 8 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の誘殺数は236頭で、平年（424.1頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 67～136ページのアブラムシ類の項を参照

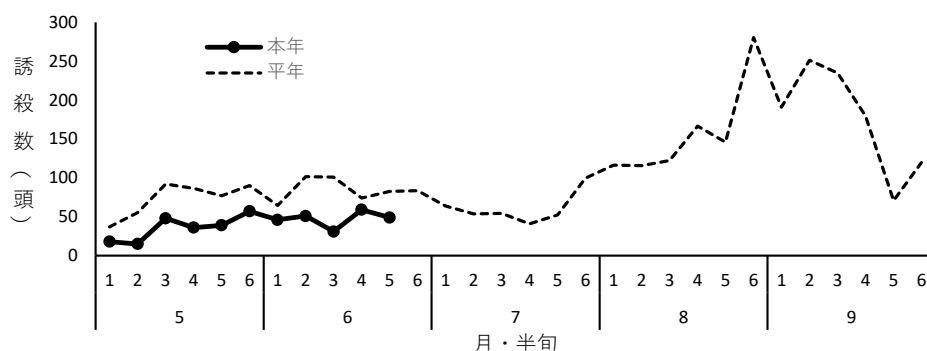


図5 黄色水盤によるアブラムシ類誘殺数の推移

## IV 果樹

### 1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月4半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は15.6頭で、平年（26.8頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・発生状況に注意し、園地への飛来が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド系殺虫剤）等を散布する。
- ・防除指針：リンゴ 140、145～146、148～149 ページ、ニホンナシ 151～152、156、159～160 ページ、カキ 168、171 ページ、モモ 173～174、176 ページ参照

### 2 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・7月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

### (3) 防除対策

- ・前年、発生が多かった園地では、ユニックス顆粒水和剤 47 2,000 倍又はオンリーワンフロアブル 2,000 倍（オーソサイド水和剤 80、800 倍加用）を散布する。
- ・薬剤の散布間隔が開き過ぎないように 10 日間隔での防除を徹底する。
- ・主枝や垂主枝から発生している新梢を整理するとともに、枝つりや主枝入れを行い薬剤の到達性を高める。
- ・防除指針：140、142～143、147～148ページ参照

## 3 リンゴの輪紋病

- (1) 予報内容      発生量：やや少ない  
発生時期：並

### (2) 予報の根拠

#### 【少発要因】

- ・前年の発生量はやや少なかった。

### (3) 防除対策

- ・薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・防除指針：140、143、147～148ページ参照

## 4 リンゴのハダニ類

- (1) 予報内容      発生量：**多い**

### (2) 予報の根拠

#### 【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。
- ・7月の気温は平年並か高く、曇りや雨の日が少ないと予想されている。

### (3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が認められた場合は早めに防除する。
- ・恒常的に発生する園地では、ミヤコカブリダニ剤（スパイカルプラス）を1～40パック／樹設置する。
- ・防除指針：140、144、146～147ページ参照

## 5 リンゴのキンモンホソガ

- (1) 予報内容      発生量：並

### (2) 予報の根拠

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月4半旬のキンモンホソガの誘殺数は3.0頭で、平年（4.6頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ 7月上旬（第2世代成虫の羽化最盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：140、144～146、148～149 ページ参照

## 6 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発生量：**多い**

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 現在までの発生量はかなり多かった。

(3) 防除対策

- ・ り病した果実や葉は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・ 薬剤の散布間隔が開きすぎないように、降雨前防除に努める。
- ・ 発生が多い場合は、中旬にDMI剤、下旬にQoIとSDHI混合剤を散布する。  
ただし、耐性菌出現防止のため、DMI剤の年総使用回数は2～3回以内とし、単剤では使用しない。また、QoI剤混合剤（QoI剤含む）及びSDHI剤混合剤（SDHI剤含む）は連用を避け、年総使用回数は原則2回以内とする。
- ・ 防除指針：151～155、158 ページ参照

## 7 ニホンナシの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 前年の発生量はやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・ 薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。
- ・ 防除指針：151～155、158ページ参照

## 8 ニホンナシのナシヒメシンクイ

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・ フェロモントラップによる5月4半旬～6月4半旬のナシヒメシンクイの誘殺数は3.8頭で、平年（1.7頭）並であった。

(3) 防除対策

- ・ 7月中旬（第2世代成虫発生盛期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・ 防除指針：151、155～156、159～160ページ参照

## 9 ニホンナシのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

### 【多発要因】

- ・現在までの発生量はやや多かった。
- ・7月の気温は平年並か高く、曇りや雨の日が少ないと予想されている。

(3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・ハダニ類は高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、発生が認められた場合は早めに防除する。
- ・防除指針：151、157、159～160 ページ参照

## 10 ブドウのべと病

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並であった。
- ・7月の降水量はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。
- ・7月上旬は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：162～165ページ参照

## 11 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月4半旬の誘殺数は327.0頭で、平年（1021.5頭）より少なかった。

(3) 防除対策

- ・7月上旬（第1世代ふ化幼虫発生期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：167～168、170～171ページ参照

## 12 モモの灰星病

(1) 予報内容 発生量：少ない

発生時期：並

(2) 予報の根拠

### 【少発要因】

・前年の発生量はやや少なかった。

(3) 防除対策

・り病した果実は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。

・防袋後にはDMI剤を散布する。ただし、耐性菌出現防止のため、年総使用回数は原則2回以内とする。

・防除指針：173、175～176ページ参照

### 1 3 モモのせん孔細菌病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・現在までの発生量はやや少なかった。

(3) 防除対策

・夏型枝病斑は、見つけ次第除去し、園地外に持ち出して処分する。

・防除指針：173～174、176ページ参照

## V 花き

### 1 きくの白さび病

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・6月25日調査の発病株率は0%で平年(0.1%)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

・防除指針 192～193 ページ参照

### 2 きくのハダニ類

(1) 予報内容 発生量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・6月25日調査の1葉虫数は0.6頭で平年(0.1頭)よりやや多かった。

(3) 防除対策

・防除指針 195～196 ページ参照

### 3 アブラムシ類

(1) 予報内容 発生量：少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の合計誘殺数は236頭で、平年(424.1頭)

より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 194～210ページのアブラムシ類の項を参照

#### 4 タバコガ類

(1) 予報内容 発生量：やや少ない

(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数はタバコガが2.7頭で、平年(5.7頭)よりやや少なく、オオタバコガも1.3頭で、平年(2.5頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 198～216ページのオオタバコガ、タバコガの項を参照

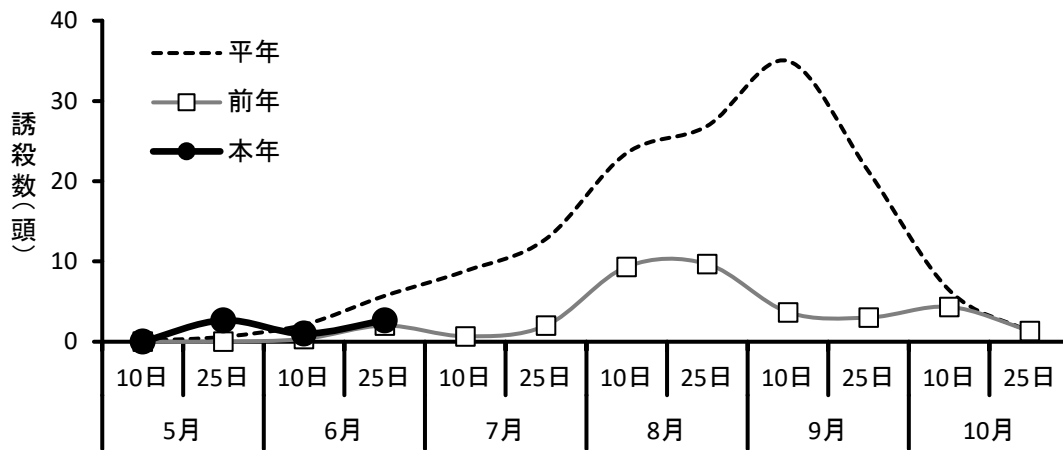


図6 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数の推移

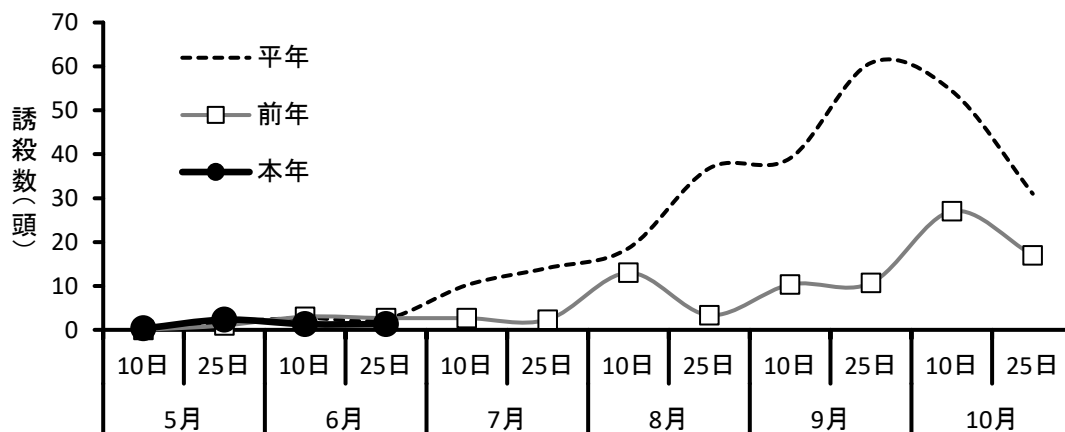


図7 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数の推移

# 令和4年度富山県農薬危害防止運動

## 6/15~9/14

### 農薬は 周りに配慮し 正しく使用

農薬を知る。理解する。適正に使う。

北陸地方 3か月予報  
(予報期間 7月から9月)

6月21日  
新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

7月 期間の前半は、前線や湿った空気の影響を受けにくいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

降水量は、ほぼ平年並でしょう。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わるでしょう。

気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

		07月~09月			
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	北陸地方	07月~09月	20	30	50
		07月	20	40	40
		08月	20	40	40
		09月	20	40	40
降水量	北陸地方	07月~09月	30	40	30
		07月	40	30	30
		08月	30	40	30
		09月	30	30	40

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)